

28年2月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年 2月1日～ 28年2月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/2月	3月	4月
仕入 動向	国産材製材品	△ 40.0	△ 20.0	0.0
	外材製材品	△ 40.0	△ 30.0	△ 10.0
	構造用集成材	△ 37.5	△ 25.0	△ 12.5
消費 動向	国産材製材品	△ 70.0	△ 30.0	0.0
	外材製材品	△ 70.0	△ 30.0	△ 10.0
	構造用集成材	△ 75.0	△ 37.5	△ 12.5
在庫 動向	国産材製材品	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
	外材製材品	0.0	0.0	0.0
	構造用集成材	12.5	0.0	△ 12.5

・プレカット部材の仕入は、各品目とも2月の大きな減少が、3月は減少幅が小さくなり、4月は国産材製材品は横ばいとなるなどわずかな減少となる。

・プレカット部材の消費は、各品目とも2月の大きな減少が、3月は減少幅が小さくなり、4月は国産材製材品は横ばいとなるなどわずかな減少となる。

・プレカット部材の在庫は、国産材製材品は3ヵ月連続して減少、外材は3ヵ月連続して横ばい、構造用集成材は2月の増加が、3月は横ばい、4月は減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	28/2月	3月	4月
受注	△ 50.0	△ 20.0	△ 10.0
加工	△ 50.0	△ 40.0	△ 10.0
受注残	△ 50.0	△ 30.0	△ 20.0

・プレカット工場の受注、加工及び受注残は、3ヵ月連続して減少するが、その減少幅は月ごとに縮小する。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入は順調、受注低迷で消費少ない、在庫は低水準。
- ・2月は一番の不需要期のため仕入減、消費減だが、国産材の方から回復、輸入集成材の仕入は絞っているため在庫は減少。

(受注動向)

- ・全てにおいて低調。
- ・スタートは3月中旬から。